



住吉教会 2012 年度テーマ
「殉教者の霊性を生きる」
—信仰刷新の年—

御復活おめでとうございます

赤波江 豊 神父

御復活おめでとうございます。昨年3月11日、四旬節の最中に東日本大震災が起こり、その年は自粛ムードの中、複雑な気持ちで復活祭を迎えました。日本の社会は様々な困難をかかえたまま、まるでこの一年間四旬節が続いたかのような、まだ本当の復活祭を迎えていないかのような1年間でした。でも夜がどれほど長くても朝は必ず訪れます。春の訪れがどれほど遅くても必ず桜は咲きます。いいことも過ぎ去りますが、悪いことも必ず過ぎ去ります。大震災によって多くの大切なものが失われましたが、同時にそれによって新しいものが生まれました。新しい人々の絆、思いやりの心、困難を乗り越えて生きる生命力など。私たちの社会も教会も生きて有機体です。何か失われたときには、同時に必ず新しいものが生まれます。私たちは失われたものを取り戻す生き方ではなく、いつも新しく生まれるものを育てる生き方を求めましょう。いつでも、どこでも小さいながらも私たちの周囲には福音的芽生えはあります。これをしっかりと見つめ育てていくなれば、私たちはいつもよりよい社会、教会を築くことができるでしょうし、いつでも、どこでも小さな復活祭を祝うことができるでしょう。

2012年山岳民族村体験学習記

赤波江 豊 神父

今年も2月28日から3月13日まで長崎の神学生・大学生たちとタイの山岳民族（カレン族）の村へ体験学習に行ってきた。一行は神学生7名、大学生4名と司祭2名とシスター1名だ。行先はメチェム県のメーニンクラン村だ。2月28日チェンマイの司教館で1泊し、翌29日はオリエンテーション。この時私の友人でカレン人の青年が軍服姿でやってきた。彼は現在兵役中だが、この日から1週間の休暇なので一緒に参加することになった。いきなり軍服姿の人が来たので皆一瞬びっくりしていた。

タイではもう夏が近づいて日中は少し暑い。チェンマイから4時間ほど車に揺られてたどり着いた山間部の村は戸数10数軒の小さな村で全員カトリック信者だ。村には川が流れていて傍で牛の群れが休んでいる。村に着くと早速村人が続々と出迎えてくれた。神学生や大学生たちは1~2名づつ村の家に、司祭とシスターは村長の家にそれぞれお世話になることになった。現在村に教会はなく、村人の願いで一緒に教会を建設することになった。その間ミサは各家庭に皆集まって行った。ミサは日本語と私のタイ語を交えて行った。ある日説教でインドの昔話をタイ語でしたら、今までになく村人が嬉しそうに聞いている。まだ自分のタイ語が通じるので安心した。

今回の体験学習の中心目的は教会建設のお手伝いだが、教会建設と言っても村に重機はなく、スコップや鍬が少し、その他簡単な道具があるだけで、それで皆こつこつと基礎のための穴を掘る。

土は固い。慣れている村人は手際よく作業しているが、不慣れな日本人の方は遅々として進まない。セメントや砂を運ぶ作業もけっこうきつい。青年たちは楽しそうに働いているが、彼らより 30 歳以上も上の私にとっては大変な作業で、まったく彼らのパワーにはついていけない。去年できたことが今年ではできないことも多い。頭を上げると爽やかなタイの夏風が一瞬頬を慰めてくれる。

建材にするために川の石を集める作業もした。川は村人の生命線で、飲料水を始め、生活用水は全てこの川から頂く。それぞれの家庭はこの川から水を引いているが、流木や木の葉などでパイプが詰まって何度か断水した時には川で体を洗ったり洗濯したりもした。足元では小さな小魚が泳いでいる。この時季川に入るのは気持ちがいいものだ。これが気に入って毎日川に行く神学生もいた。

食事は、朝晩は各自の家庭で、昼食は一軒の家に全員集まってとる。村の人は基本的に自給自足で、食事が出されるものは村でできたものばかりだ。どこの家庭でもよくトウガンやカボチャやタケノコを出してくれた。特にタケノコは中華料理のメンマ風で非常においしい。ご飯がよくすすむ。しかし食事が終わると、よく家の前で他の家の人が待っている。カレン人は歓迎の意味でいろんな家で食事に招待する。そういうことが 3 回も 4 回も、場合によったらそれ以上もある。もっともタイ米は消化にいいので日本の米のように胃にもたれることはない。ある日生きたニワトリが 3 羽解体され昼食に出された。その解体現場を見ていた女子大生がショックで、その肉に手をつけようとしない。私たちは日頃スーパーで切り身の肉を買って食べているが、実際動物からいのちをいただくとはどういうことか知らなければならない。

作業の合間の日には青空市場もした。これは日本から持ってきたり、バンコクで集めた中古衣料を、以前は村人に自由にあげていたが、それでは多少不公平もあったので、今年は品物に値段をつけ 1 家族あたり 300 バーツのクーポン券を作って配布し、その範囲内で「買い物」をしてもらった。近くの村から来た人もいた。私が提供したものを嬉しそうに買ってくれた人もいた。用意したものは全て売り切れた。

村に学校はなく、小学生以上の子どもたちはメチェムの町の学生センターに寄宿して土日だけ村に帰る。この学生センターを訪問して交流会をもち、日本の歌やゲームを披露した。子どもたちも歓迎に非常にエネルギッシュに踊ってくれた。中にどこで誰から教わったのか知らないが、一人で見事なダンスを披露してくれた小さな男の子がいて、あまりの上手さに圧倒された。日本だったらテレビに出演できるだろう。きっと将来の舞台を夢見て毎日練習しているのだろう。

12 日間の滞在を終えて帰る時には村人全員で見送りに来てくれた。泣いている人もいる。教会はやっと柱が立ったくらいでまだ完成には時間がかかる。献堂式は 5 月 17 日の予定で「聖マリア・ゴレッティ教会」と名付けられるらしい。完成を見ないまま名残惜しい気持ちで村を後にする。どんな教会ができるのだろう。村を出て山を下りたら、来た頃よりも更に暑くなっていた。水田では田植えが行われていて、日本の初夏を思わせる光景だ。日本のこの時季、村では念願の教会献堂式が行われる。村人の嬉しそうな顔を思い浮かべながら今夜の宿泊先チェンマイに向かう。

[写真はこちらから](#)

感謝献金について

私たちは誕生から始まって受洗、七五三、入園、入学、初聖体、堅信、入試、成人式、就職、結婚など人生の節目で神様からたくさんのお恵みをいただいています。このお恵みに対する感謝の気持ちを献金という形で神様に表すこともできます。あらゆる場で神に感謝をささげましょう。（赤波江神父）

2012年3月度カトリック住吉教会評議会議事録

日時：2012年3月18日(日) 11:00 ～ 13:00

場所：第2会議室

出席者：赤波江神父・他評議会メンバー15名

はじめの祈り：赤波江神父

しばらく留守をしておりましたが先日タイから帰ってまいりました。タイはもう夏で暑かったです。むこうの夏は今頃から始まって4月、5月が一番暑い真夏に入ります。今年も7名の神学生と学生計12名の若い人たちと一緒にタイの山岳地帯に行ってボランティアとしての体験学習をしてきました。やはり20歳前後の人たちと働くというのは大変で年ごとに2年3年前にできた事が出来なくなって体の衰えというものが感じられ今年には特に例年になく疲れしました。

いい体験させていただき、みなさんにご迷惑をお掛けしましたが、また何らかの形で報告したいと考えております。

来月はもう復活祭です。ミサの中でも言いましたがこの1年間ずっと四旬節が続いているような思いでしたがこの困難な中にもまたいろんな人との出会い、困難がなければ得られない恵みを沢山いただきました。その気持ちを心に留めながらこのご復活祭を共に迎えたいと思います。ご復活祭のあとシリロ神父様がお国に帰られて寂しくなりますけれど、私たちが心一つにして、中央との共同司牧をしっかりと腰を据えて続けてゆきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

議題：

I 今後の日程確認

- ・3月20日(火) 助祭候補者認定式(トゥアンさん) 13:15～大阪カテドラル
- ・3月25日(日) 黙想会 指導:ルカ・ホルスティンク神父(フランシスコ会)
ホームページ委員会(黙想会后)
- ・4月1日(日) 受難の主日・枝の主日 ミサの後大掃除
- ・4月4日(水) 聖香油ミサ 11:00～ (カテドラル) シリロ神父様金祝
- ・4月5日(木) 聖木曜日 19:00～
- ・4月6日(金) 聖金曜日 19:00～
- ・4月7日(土) 炊き出し 聖土曜日 19:00～
- ・4月8日(日) 御復活祭 9:30～
- ・4月12日(木) 茶話会 10:30～
- ・4月14日(土) 小教区評議会 14:00～
- ・4月15日(日) シリロ神父送別会(ミサはシリロ神父様)
- ・4月22日(日) 小教区総会
- ・5月6日(日) 神戸地区宣教司牧評議会 14:00～明石教会
- ・5月10日(木) 茶話会 10:30～
- ・5月12日(土) 小教区評議会 14:00～
- ・5月20日(日) ベロー神父様送別会 鈴蘭台教会

II 審議事項

- ① シリロ神父様、ベロー神父様送別会について。
 - シリロ神父様が4月24(火)日朝関空から出発、帰国される。
 - 3月20日トゥアンさんの助祭候補者認定式。復活祭に送別会と認定式のお祝いをする。
 - 4月4日 シリロ神父様 金祝祝いミサ カテドラル 花束でお祝いする
 - ベロー神父様 5/20 送別会は中ブロック3教会で行う。住吉は鈴蘭台教会に。参加者を後日募集。
- ② 3月25日(日) 黙想会 指導:ルカ・ホルスティンク神父(フランシスコ会)

ミサは通常通り行われるが、ミサの中で黙想会の話がある。

ゆるしの秘跡はミサ後に行われる。

- ・日本26聖人巡礼者対策 巡礼で住吉教会への来場が予想される。受付当番、小冊子など準備要。
- ・受付当番 広く募集をする → 午前 9:30～12:00 迄 午後 13:00～15:30 位迄 交代
- ・小冊子→ 守護聖人の聖パウロ三木との係わりの小冊子をまとめる。編集委員会を設置する。
- ・スタンプのデザインを決める。

③ 小教区総会(信徒総会)について

- ・4月22日(日)開催に決定。
- ・ミサの時に神父様から今年が日本26聖人列聖150周年にあたり、殉教者聖パウロ三木が守護聖人である住吉教会への巡礼者が多くなると思うので受付当番の募集を呼びかけてもらう。
- ・人事関係報告 ミサのお知らせの中で役員・チーム長の紹介(2012年4月度から)。

議長交替: 谷口⇒滝川、 広報チーム: Tk⇒Im

施設管理チーム: Tk⇒Kr(兼務)

- ・会計報告 決算と予算の報告はミサの終わった後。

④ 聖パウロ三木列聖150周年(2012年)の取り組みについて

- ・「日本二十六聖人列聖150年記念行事委員会」を設置し諸行事を行う。
- ・バスによる巡礼: 6月9日(土)に決定 京都方面
フランシスコの家とその周辺(高槻教会) その他
- ・6月10日(日) 11:00 6月度小教区評議会

⑤ 2012年度年間活動計画

⑥ その他

➤ 先日の市民救命士講習会・AEDの対応について

AED購入を検討する必要有。高額であるが近所の設置場所に走って行けば救急車が来るより遅くなる。

➤ 神戸バイブルハウス支援チャリティーコンサート支援(テレマン・アンサンブル)

5月13日(日)15:00～ 神戸中央にて。3年目になるが例年通り協力する。

III 各チーム長報告、提案

➤ 営繕チーム(Tk代理): 香部屋に侍者服・司祭服等の収納家具設置の件

先日工務店・施工業者と打合せた。(Tk・Kr・Kh・Tg)

3月26日(月)(予備日として27,28日)着工予定。

➤ 財務チーム(Tk): 東日本大震災支援金について

9月に大船渡プロジェクト(カリタスジャパン大船渡ベース地の森憩いの家)と仙台教区へ送金した。

残金あるので3月25日の募金の集まり具合を見て判断し送金する予定である。今回は大船渡プロジェクトへの送金を考えている。

・息の長い支援を必要とするので今後はシステムとして今までの送金状況をまとめてスクリーンに掲示し、皆さんの継続的な協力が得られるように諸施策を検討する必要がある。

➤ 社会活動チーム(Kj): 神戸地区社会活動委員会の呼びかけで本日南相馬市鹿島区仮設住宅への支援金の募金を行い集まった金額を今日の神戸地区社会活動委員会例会に持参する。

ただし今後は個別でなく大阪管区救援募金に基づいて送金することとする。

➤ 大阪教区より冊子「現代にひびく右近の霊性」が送られてきた。無料配布。200冊注文。

➤ 典礼チーム(Ng): 3/20は祝日だが平常通りミサは行われる。

・4/5 洗足式の長椅子を幼稚園から借りる。

・4/1の枝の主日はホールで入祭を始める前に祈願の交唱の歌を歌う。

- ▶ 社活(Kj): ・4/1(枝の主日)にイースター用卵の募金をする。
 - ・エンブリオ募金箱(お知らせで説明)を置く。
 - ・ボランティア保険の更新について。→改めて検討する。
- ▶ Kw: ホール名の改正 → ・パウロ三木ホール、パウロ三木コーナー(名称)の使用はいつからか。→ 今後使用していく。
 - ・ネームプレート等に英語・スペイン語も必要か。→今後検討する。
- ▶ 青少年チーム(Hb): 本日神戸地区青年会で中川神父様の黙想会が神戸中央教会であります。また夕方6時より去られる神父様とシスターの送別会があります。

お知らせ

□ 聖週間の典礼について

- ・ 聖週間の典礼については住吉教会ホームページ・ニュース欄に説明があります。ぜひご覧下さい。
- ・ 4月 1日(日) 受難の主日・枝の主日 9:30
- ・ 4月 4日(水) 聖香油ミサ 11:00～ (カテドラル) シロ神父様金祝
- ・ 4月 5日(木) 聖木曜日 19:00～ 主の晩餐の夕べのミサ
- ・ 4月 6日(金) 聖金曜日 19:00～ 主の受難
- ・ 4月 7日(土) 聖土曜日 19:00～ 復活徹夜祭 復活の聖なる徹夜祭
- ・ 4月 8日(日) 御復活祭 9:30～ 主の復活 復活の主日(日中のミサ)

□ シロ神父様について

- ① 4月4日(水)カテドラルにて聖香油ミサとシロ神父様の金祝や他の神父様のダイヤモンド祝、金祝、銀祝のお祝いがあります。皆様一緒にカテドラルに行きお祝いしましょう。
- ② 4月8日(日)のご復活祭のあと、40数年にわたり日本での宣教、司牧に携われスペインに帰国されることになりました。神父様のこれまでのご指導に心から感謝しましょう。
- ③ 4月15日(日)復活第1主日ミサ シロ神父様の司式です。
ミサ後、シロ神父様の送別会を行います。皆様、心のかもった**パーティー用のお料理をお持ち寄り下さい。**多くの皆様の参加を希望します。
- ④ 4月24日(火)に関空からスペインに帰国されます。有志は空港までお送り下さい。

□ ベロー神父様について

- ① ベロー神父様は4月8日(日)のご復活祭のあと、故郷のフランスへ帰国されることになりました。日本での63年もの長きにわたり神戸地区の特に18年も住吉教会を育てて頂き感謝に耐えません。
- ② 神父様の送別会は、5月20日(日)神戸地区中ブロック三教会(鈴蘭台、兵庫、たかとり)合同で鈴蘭台教会で行われます。中ブロックのご好意により住吉教会はそれに参加することになりました。後刻、参加者を募ります。感謝とよき思い出となるよう皆様ぜひご参加下さい。
- ③ 6月4日(月)に関空よりフランスへ帰国されます。有志の方はお見送り下さい。

ロジェ・ベロー神父

1925.1.5 フランスに生まれる、1949.5.29 叙階、1949.12 来日、
1951.1～1961.1 住吉教会助任、1961.1～1968.4 住吉教会主任(10代)

住吉教会の歩みのうちの18年間はベロー神父と共にあった。その初期は日本の戦後復興期にあたり、都市計画による用地削減、焼失した聖堂の替わりに伝道場を改装した仮聖堂を台風で破壊されるなど難題が山積していた。しかし、自然のもたらした仮聖堂の破壊は、幼稚園設立への動きとなり、ベロー神父は自ら「星の園」と命名し、その創立者となった。若さと燃える情熱に任せた宣教活動は、戦後の渇いた人々の心にうるおいを与え、希望の灯りをともした。ベロー神父は、当時を懐かしみながらこう語られた事がある。「住吉は私の初恋でした。」と(1985年「50周年記念誌」より)